慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	漢三國六朝紀年鏡銘集録増補(其四)
Sub Title	
Author	梅原, 末治(Umehara, Sueji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1935
Jtitle	史学 Vol.14, No.1 (1935. 4) ,p.157- 163
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350400-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

漢三國六朝紀年鏡銘集錄增補（其四）

梅原末治

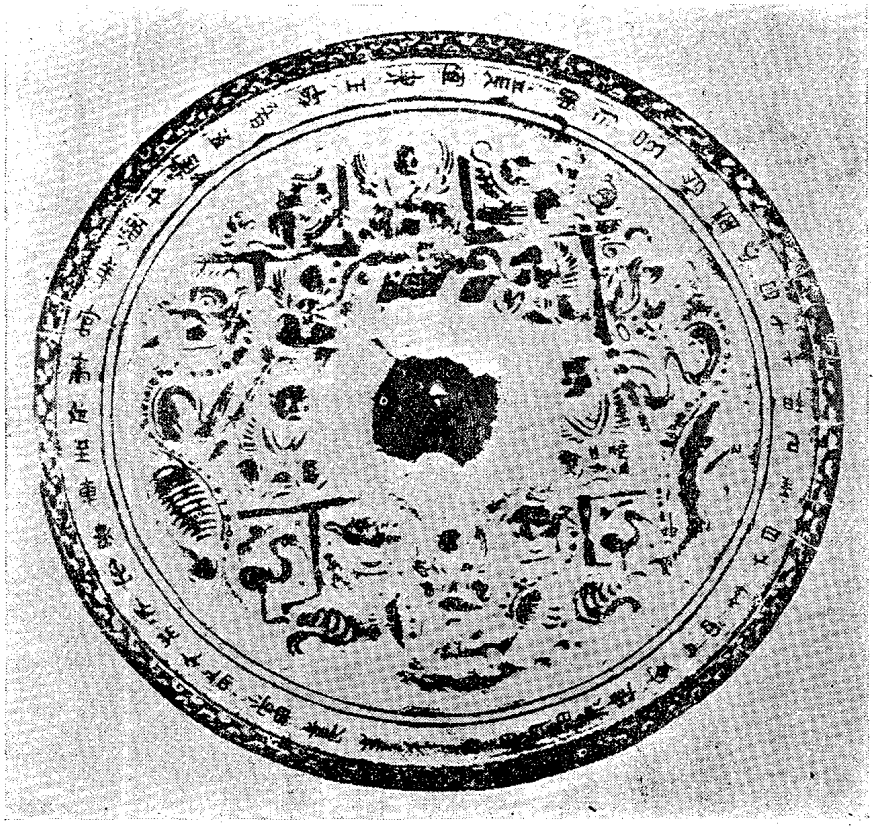
廬江の劉氏善齋は現代支那に於ける金石收藏の富を以て世に著聞してゐる。昨年『善齋吉金錄』二帙を印行して主として其の藏する三代古器を收錄したが、最近更に二帙を續刊、鏡鑑、印鉥、古泉等を博載して、學界に資料を提供することになつた。此の後者の鏡鑑の部卽ち鏡錄を觀るに、うちに六朝以前の年號鏡が少なからず收載せられてゐて吾々の注意を惹くのである。尤も此の書また從來の支那の圖錄の型を脫せず、個々の遺物が寫眞で示されてない爲に、方今の樣に年號鏡の如何はしい遺品の續出する際にあつては、拓影と圖とだけでは、未だ以て直ちに確な資料となし難いのであるが、既に氏の手を離れて本邦に來てゐる遺品がすべて確實なるに徵すると、劉氏の鑑して眞としたものは、略ぼ認めてよい樣であり、また銘の一部を改作したものは、拓本からでも發見し得るのであるから、いま同氏が此の圖錄の發表せられたのを機會に、それを中心として『紀年鏡銘集錄』增補の第四稿を作ることにした。

さて善齋の『鏡錄』載する所の漢三國六朝の紀年鏡は、卷一に於ける元興元年鏡を首め、卷二の遺品を併せると十二面の多數に上るのであつて、其の儲藏の富は我が守屋孝藏氏に次ぐ。併し中で漢の元興元年鏡は、もと寮齋の藏したもので、既

に學界に紹介せられ、而も實物は再版物であるらしく、其の建安十年五月六日鏡は桑名氏舊藏の遺品と全然同じく、太平二年鏡は嚮に上海某氏藏として廣瀨氏の拓影に據つて紹介したもの、又熹平二年、中平六年、永安四年の三鏡は、本書に收められてゐるが、實は既に氏の手を離れて孰れも本邦に齎され、守屋氏の收藏に歸したものであるから、吾々未見の資料は他の六面に過ぎないわけである。以下例に依つて是等を年代順に紹介することにする。

一後漢熹平元年神獸鏡

拓影に據ると面徑三寸三分ある。內外兩區を分つところの突帶には內側に鋸齒文を附し、內區に一方より見る樣に配した薄肉刻の神獸形があり、外區に銘文を置いた簡單な圖樣で、其の神獸は既知の藤井氏藏の建安十四年鏡に似てゐる。銘文は三十字から成るが、所揭の拓影乃至圖からでは熹平元年（西紀一七二年）たる紀年の部分以外釋讀出來ない。



第一圖　建安廿四年神獸鏡拓影

二後漢建安廿四年階段式神獸鏡

大體の構圖は前者に似てゐるが、內區は幅が廣くなつて、神獸の配列は漢末から吳代の一部に行はれた階段狀の式に屬し、左右の兩側並に下方に半肉刻に近い龍虎形があり、後者には禽鳥を配し、鈕を繞つて神人を布置したものである（第一圖參照）。銘文は外區にあつて、次の樣な左行の長文である。

吾作明竟宜侯王。家有五馬千頭羊。官高位至東丞出亡□人而當萇生。禾□日月□衆。建安廿四年六月辛巳朔十七日丁酉□

文は既に知られた建安廿四年四月鏡に近いが、一部分に不明な所がある。『三正綜覽』で見ると同年六月の朔は辛巳とあつて、こゝに記する所の干支が合致する。文中の家有五馬千頭羊なる句は善齋の藏する吳の太平二年鏡にも見える。面徑約四寸。

三吳黃武元年半圓方形帶神獸鏡

拓本に據ると面徑は約四寸五分である。四方より見る可く神獸を配した內區の次に、半圓方形帶を繞らして、その方格に一字宛

宜三公□三十二大夫

なる副銘を容れ、外區に主銘を鑄出した通有な式である。文は一部分失はれた所はあるが、大體次の如く讀まれる。

黃武元年□□……□制作百凍明竟淸□□且□□□□萬年宜侯王立至三公□□

記年の下の缺けた部分は、他の例から推すと干支並に月日を表はしたのであつたらう。尤も此の黃武元年の部分だけは字間が他に較べて稍々狹い點が異例として、該紀年に若干の疑を挿ましめるものがある。

四吳黃武二年神獸鏡

面徑約三寸三分。これは簡單な神獸鏡で、內區には四周から見る樣になつた五神五獸を表はしてゐる。銘は左行左字で

黃武二年大歲在癸卯吉羊元□三□……

とある。善齋はそれに

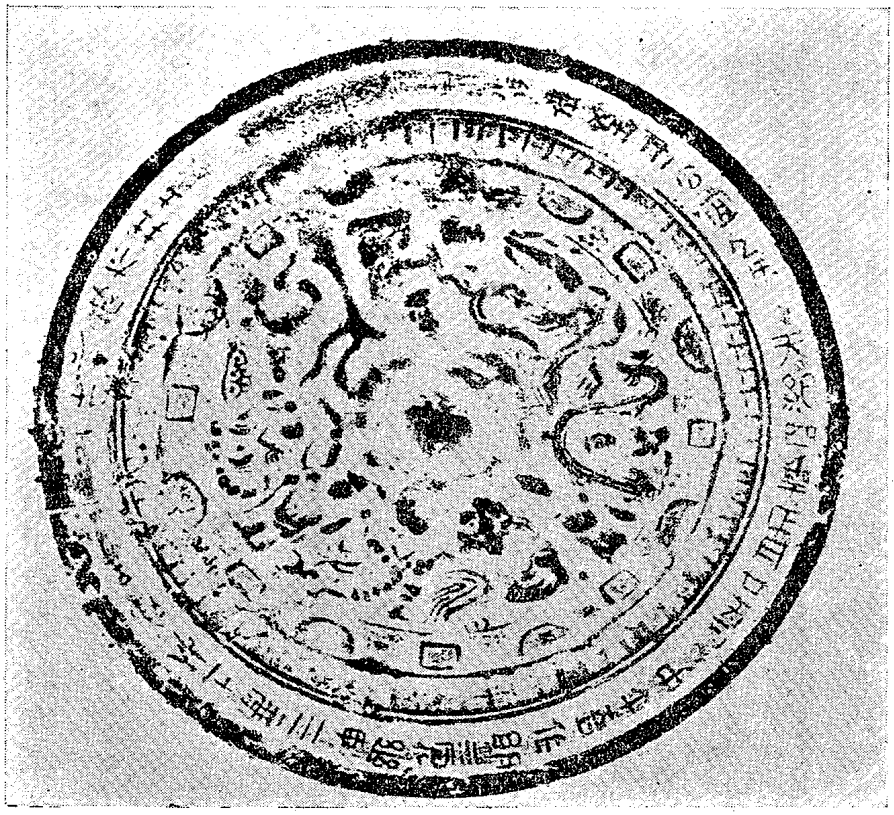
按通鑑目錄黃武二年大歲爲癸卯此鏡所記甚合

と註してゐる。

五吳天紀四年半圓方形帶神獸鏡

同じく半圓方形帶神獸鏡であるが、內區の圖樣は第二圖に示す樣に、著しく畫象的なものとなつてゐる點が注意せられる。外區に存する銘帶は二ケ所型流れの爲に不分明な所があり、また天紀なる記年の部分が他と稍々體が違つてゐるし、其の內區の圖樣を說明したと思はれる部分の明ならぬのを憾とする。

天紀四年正月廿五日甲?午。吾作明竟。幽湅三



第二圖　天紀四年神獸鏡拓影

商。上載孫子。□□伯桃穀□杜?土擊□□□□

位至三公宜侯。

紀天は吳の歸命侯の年號である。其の二年鏡が守屋氏の架藏品にあるが圖柄はこれと違つてゐる。其の干支は善齋も指摘してゐる如く、實際と合はないものである。徑約三寸七分。

六西晉太康三年半圓方形帶神獸鏡

從來知られてゐる二面の太康三年鏡と略ぼ同式であつて、內區の二神四獸は四周から見る樣に配布せられて整ふてゐるが、半圓方形帶は著しく簡單なものとなつてある。銘文は左行で

太康三年十二月八日□賀□□楊州平士三公九卿十二大夫宜吏人訾用千萬子孫富

とある。他と違つた部分が型流れでよく讀めない。拓本に據るに徑凡そ四寸五分である。

次に右の著錄の外昨春以來川合定治郎氏の好意に依り新たに知り得た年號鏡が二面ある。一は後漢建安七年鏡で、他は西晉太康三年鏡である。共に未だ實物を見るに至らないが、同氏に從ふと、前者は昨年七月上海の市場に現はれたもので、標式的な階段式神獸鏡であると言ひ、後者は同じ年の六月に本邦に將來せられた遺品で、今ま東京にあるとの事、この方また(六)に擧げたと略ぼ似た式であるが、銹化甚だしく銘辭の明なのは單に記年の部分だけであつたと。備忘の爲に錄して他日實見の機會を待つ。

昭和六年夏『漢三國六朝紀年鏡集錄』なる小冊子を公にしてから、新資料の出づる毎に本誌の餘白を借りて、其の增補の文を書いて來て、今や第四回に達した。而して此の間新に知り得たものが二十面を超ゆるに至つたのである。本文を終へるに當つて、是等の一括した表を作製附載して觀者の便に供へる。

紀年	（西紀）	鏡名	所藏者及出典	本增補對照
後漢　延熹七年（正月）	164	獸鈕獸首鏡	帝室博物館藏	一ノ(一)
同　延熹七年（五月十五日）	164	獸首鏡	辰馬悅藏氏藏	一・三
同　熹平元年	172	神獸鏡	『善齋吉金錄』鏡錄所收	四ノ(一)
同　中平三年	186	半圓方形帶神獸鏡	據廣瀨都巽氏拓影　上海某氏藏	一ノ(二)
同　建安七年	202	階段式神獸鏡	川合定治郎氏報　上海某氏藏	四
同　建安十年（五月六日）	205	階段式神獸鏡	『善齋吉金錄』鏡錄所收	四
同　建安廿四年（六月十七日）	219	階段式神獸鏡	同　上	四ノ(二)
吳　黃武元年	222	半圓方形帶神獸鏡	同　上	四ノ(三)
同　黃武二年	223	神獸鏡	同　上	四ノ(四)
同　嘉禾四年（九月）	235	階段式神獸鏡	守屋孝藏氏藏	一ノ(三)
同　太平二年（二月廿日）	257	半圓方形帶神獸鏡	徐乃昌氏藏『小檀欒室鏡影』所收	三ノ(一)
同　太平二年	257	半圓方形帶神獸鏡	『善齋吉金錄』鏡錄所收	一ノ(四)・四
同　太平二年	257	半圓方形帶神獸鏡	安富寬兵衛氏藏	二
同　永安元年	258	半圓方形帶神獸鏡	徐乃昌氏藏『小檀欒室鏡影』所收	三ノ(二)

吳	寶鼎元年	266	半圓方形帶神獸鏡	據廣瀨都巽氏拓影	一ノ(五)
西晉	泰始六年(五月六日)	270	繪文樣(畫文帶)神獸鏡	白堅氏將來品、廣瀨氏拓影	一ノ(六)
吳	鳳皇元年(五月廿四日)	272	半圓方形帶神獸鏡	徐乃昌氏藏『小檀欒室鏡影』所收	三ノ(三)
同	天紀四年	280	半圓方形帶神獸鏡	『善齋吉金錄』鏡錄所收	四ノ(五)
西晉	太康元年(八月七日)	280	半圓方形帶神獸鏡	徐乃昌氏藏『小檀欒室鏡影』所收	三ノ(四)
同	太康三年(二月廿日)	282	半圓方形帶神獸鏡	守屋孝藏氏藏	一ノ(七)・三
同	太康三年(十二月八日)	282	半圓方形帶神獸鏡	『善齋吉金錄』鏡錄所收	四ノ(六)
同	太康三年	282	半圓方形帶神獸鏡	川合定治郎氏報	四
同	太康四年(正月廿八日)	283	半圓方形帶神獸鏡	帝室博物館藏	一ノ(八)